



SBS ビジネスレポート

2023年12月期 期末株主通信

2023年1月1日～2023年12月31日

社長メッセージ
連結業績
危機管理広報マニュアルを改訂
特集
トピックス
会社概要&株式の状況



厳しい環境を耐え抜き、 新たな成長の芽を育てます

代表取締役社長 鎌田 正彦



まず、本年1月1日に発生した能登半島地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された多くの皆様に心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧を切望すると同時に、物流事業に携わる者として、人々が平穏な日常を取り戻すために何ができるかを考え、実行してまいります。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症に起因する行動制限が緩和され経済活動の正常化が進んだ一方で、光熱費の高騰、資源価格および生活必需品価格の上昇が続き、景気の先行き不透明感が依然継続する形となりました。物流業界においても海上コンテナ運賃の下落、半導体不況、円安に伴う物価高騰とそれに起因した買い控えなどによって、苦戦を強いられる状況が続いています。この状況は2024年度も続く予想されますが、そうしたなかで全社を挙げて営業力に磨きをかけており、大型案件の獲得など、新たな成長の芽も出始めています。厳しい環境に耐えながらこの芽を育て、新しい花を咲かせられるよう、グループ一丸となり事業活動に取り組んでまいります。

2023年度の連結業績については、前述の要因による物流量の減少とコスト増加が当社の収益の伸びを妨げた結果、売上高は前年比235億69百万円減(△5.2%)の4,319億11百万円、また営業利益は同21億24百万円減(△9.7%)の197億19百万円、経常利益は同16億56百万円減(△7.7%)の197億47百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同16億75百万円

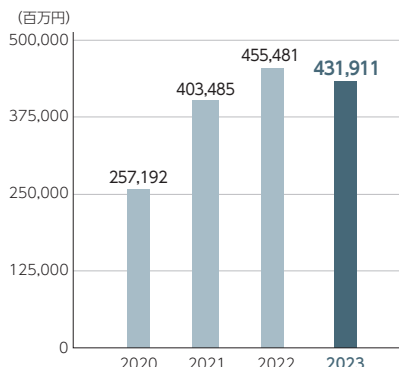
減(△14.3%)の100億56百万円と、減収減益の決算となりました。

2024年度もコスト高、人手不足と最低賃金引上げなど、厳しい状況は続きます。そして、物流の「2024年問題」について、多くの株主の皆様からご心配をいただいております。当社はずでに、残業時間の管理に関して万全の体制を構築していますが、このような環境においては、規模と組織力に優る会社が生き残ることになります。私たちはこの状況を、むしろ業容拡大のチャンスと捉えており、2023年にスタートした3か年計画「SBS Next Stage 2025」で掲げた攻めの経営を行って物流トップティアをめざします。

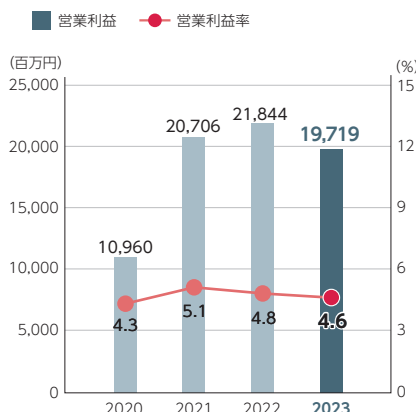
2024年2月には、グループの物流施設で最大規模となる「野田瀬戸物流センター」(千葉県野田市)が竣工、同年中に千葉県富里市においても新規物流センターの建設に着手する予定です。「野田瀬戸物流センター」では、4フロアのうち1フロア約1万坪(33,000㎡)をE C物流専用区画とし、ワンストップのE Cプラットフォームサービス「E C物流お任せくん」によってお客様のE C物流のニーズに高品質かつ競争力のある価格でお応えできる体制を整えました。中期的に同分野の売上高1,000億円超を視野に、E C物流を3 PLに次ぐ第二の事業の柱としていく考えです。株主の皆様には、当社の事業活動と成長戦略にご理解をいただき、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当期の連結業績

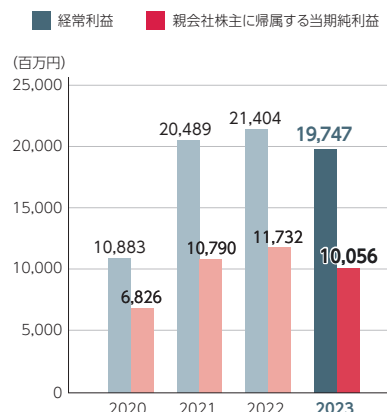
売上高



営業利益 / 営業利益率(右軸)



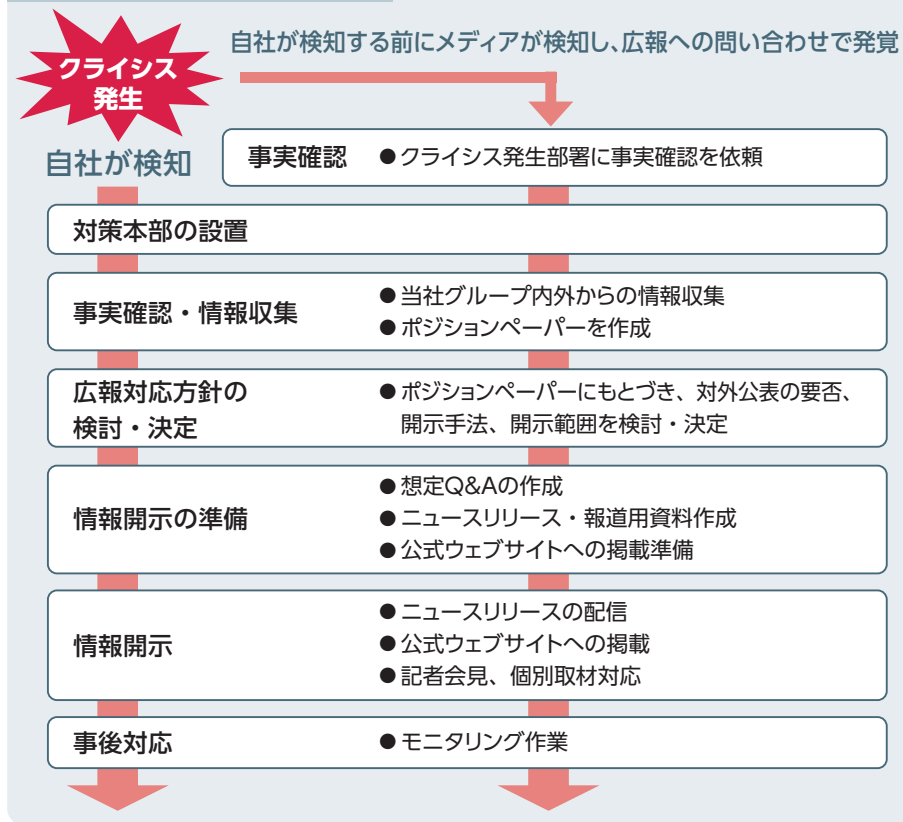
経常利益 / 親会社株主に帰属する当期純利益



▶ 危機管理広報マニュアルを改訂

SBSグループは、昨年より「危機管理広報マニュアル」を再整理。事業を行ううえで発生しうるクライシス事例を明記し、対応策などのマニュアルを見直しました。危機の発生に備えるとともに、リスクを早期に発見、事態を収束させることで被害の拡大を防ぎます。

緊急対応の基本フロー



■ 広報対応を要する主なクライシス(一部抜粋)

リスク分類	クライシス事例
法令違反	貨物自動車運送業の違反 倉庫業法の違反 等
自然災害	震度6強以上の地震・津波 暴風雨・台風 等
重大事故の発生	交通事故／火災事故／環境汚染 等
顧客情報の流出	社員の持ち出し、紛失、誤送信 ウイルス感染・サイバー攻撃 詐欺被害(金銭被害含む) 等
コンプライアンス	経営層の失言・行動面での失態 SNS炎上 (公式および従業員の私的な投稿) 従業員の法律・法令違反 等
労務	雇用問題(雇止め、大量退職) 人権問題(ハラスメント) 長時間労働・自殺、労災 等
財務	不正行為 (インサイダー取引・不適切経理) 株主からの告発・株主代表訴訟 等



SBSホールディングス株式会社
サステナビリティ推進部 プロフェッショナル
清水 裕二

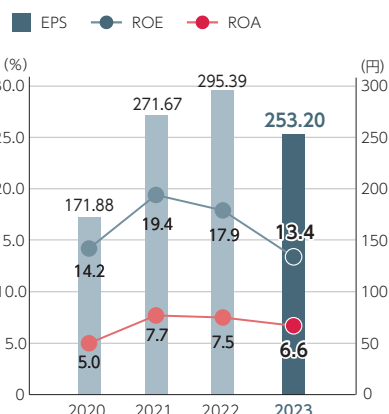
危機管理広報マニュアル見直しにあたり

当社グループでは、東日本大震災を機に、リスク管理の一環として、大規模地震発生時を想定した事業継続計画書(BCPマニュアル)を作成しました。

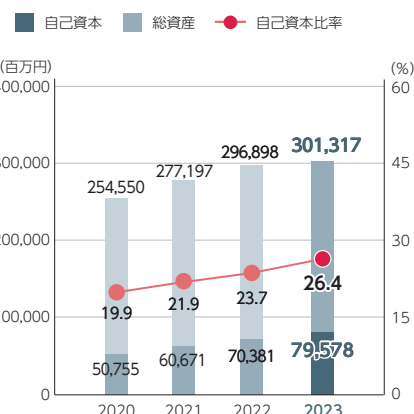
しかし、昨今の企業の不祥事に伴い、記者会見等が開催される事を多く見かけるようになり、また、当社グループにおいても、数年前の倉庫火災発生時、対応・対策として不十分な点があったことを背景に危機管理広報マニュアルの重要性が高まり、再整理に至りました。

見直しにあたり、既存のリスク管理一覧から、どのリスクがクライシスになりうるのか関連部門と調整・整合し作り上げたことで、グループとしてリスクへの感度を一段上げることができたと考えています。

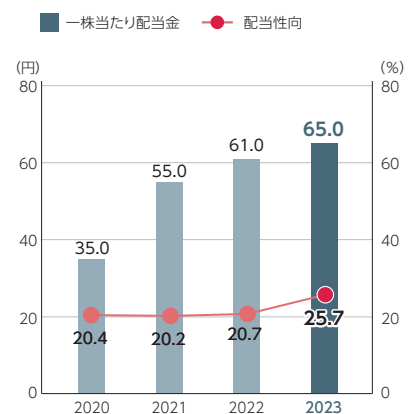
一株当たり純利益(EPS)(右軸)／ 自己資本純利益率(ROE)／ 総資産利益率(ROA)



自己資本／総資産／ 自己資本比率(右軸)



配当金／ 配当性向(右軸)



ECプラットフォーム事業の第1号戦略拠点 「EC野田瀬戸物流センター」始動

2024年2月1日から稼働し同月16日に竣工式を行った「野田瀬戸物流センターA棟」(千葉県野田市)。延床面積5万坪は、SBSグループの自社開発倉庫では最大規模を誇る大きさです。4階フロア(1万坪)には、SBSグループが重点事業領域の一つとする「EC物流」の第1号専用拠点を設置。スケールメリットを効かせ多様なLT(Logistics Technology)機器を順次導入する計画で、今秋の本格稼働に向けて着実な歩みを進めています。



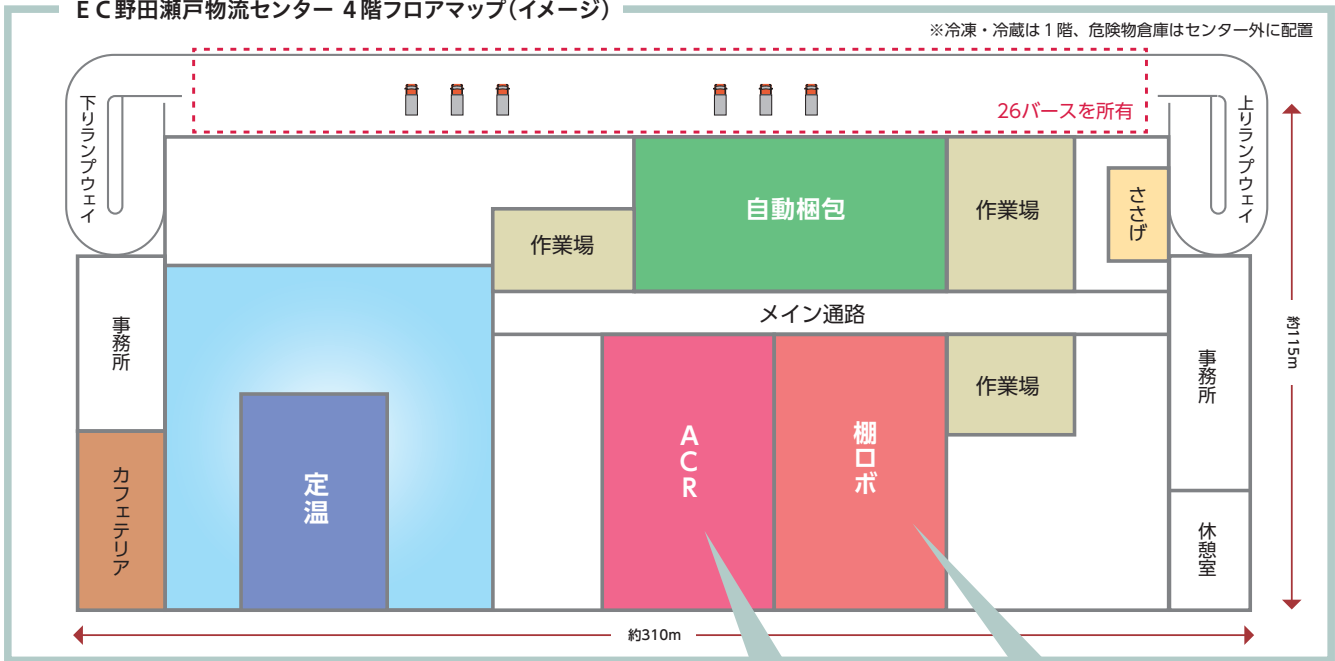
SBSグループの総合力を活かした「EC物流のシェアリングサービス」を提供

1フロア1万坪の中に、多数のEC事業者が相乗りで利用できる共同物流プラットフォーム型を採用。2022年12月、埼玉県越谷市に開設した先端口ロボットソリューション検証施設「LTラボ」で導入効果や機能評価を積み重ねたさまざまなタイプのロボットやIT(WMS)に加え、業務フローやサービスを共通化することで、省人化・省スペース化・業務標準化を図り、お客様のコスト削減に繋がっています。

お客様の多様なニーズに応える設備を用意

センター内は、三温度帯設備や、特殊商品が保管可能な危険物倉庫、返品商品の格上げ(補修)や細かい流通加工に対応する各種設備、さらに薬店や撮影スタジオも設置し、アパレル・食品・化粧品・健康食品・医薬品・雑貨など幅広い業種への対応が可能。200を超えるEC業務のサービスメニューとサステナブル対応も兼ね備え、クライアント様の要件に応じた運用設計をご提案します。

EC野田瀬戸物流センター 4階フロアマップ(イメージ)



野田瀬戸から全国へ EC物流プラットフォーム事業の拡大に向けて

SBSグループは2030年までに、EC物流の売上高1,000億円(流通総額1兆円)超をめざしています。今後は、「EC野田瀬戸物流センター」を起点として、関東のみならず、大阪・福岡など各地の主要都市にもEC戦略拠点の開設を検討。「EC物流お任せくん」サービスを全国に広げてまいります。

EC物流お任せくん





4月・9月

一宮、柏崎、野田瀬戸 自社開発の物流施設が続々とオープン

SBSグループ

SBSグループは2023年4月、中部エリア初の自社倉庫となる「物流センター一宮」(愛知県一宮市)をオープン。棚搬送ロボットなどのLT(Logistics Technology)機器を本格導入し業務の効率化に努めています。また、SBS東芝ロジスティクスは9月、信越エリア初の自社倉庫「柏崎倉庫」(新潟県柏崎市)を開発・竣工しました。2024年2月にオープンした「野田瀬戸物流センターA棟」(千葉県野田市)とあわせ、SBSグループの拠点網と自社開発倉庫の拡大を加速させると同時に、LT機器の導入を積極的に行い自動化・省人化を追求します。



野田瀬戸物流センターA棟



物流センター 一宮



柏崎ロジセンター 柏崎倉庫



3月

物流企業初、総額約350億円の ポジティブ・インパクト・ファイナンス締結

SBSホールディングス

SBSホールディングスは三菱UFJ銀行およびみずほ銀行をアレンジャーとし、物流企業初となるシンジケーション方式の「ポジティブ・インパクト・ファイナンス(資金用途を限定しない事業会社向け投資融資タイプ)」の融資契約(総額350億円)を3月、締結しました。この契約は国連環境計画・金融イニシアティブが提唱したポジティブ・インパクト金融原則に基づき、企業活動が環境・社会・経済に「ポジティブなインパクトを生み出す意図を持つもの」と確認されると、融資が実行されるものです。



1月・10月

E C事業のK2がグループ入り、 東洋運輸倉庫を合併

SBSロジコム

SBSロジコムは1月、K2 Corporate Partners(K2社)の全株式を取得。10月には同社が100%株式を所有する東洋運輸倉庫を吸収合併しました。K2社は2014年の創業以来、Eコマース(E C)に特化したサイト構築支援事業などを展開、今後はグループのE C物流事業のビジネス拡大の主力を担います。東洋運輸倉庫は創業60年余、通関からエンドユーザーまでアセット型複合一貫物流が強みで、経営統合を通じて相乗効果を発揮してまいります。



11月

モーダルシフト取り組みで表彰

SBS東芝ロジスティクス

SBS東芝ロジスティクスは11月「令和5年度モーダルシフト最優良事業者公表・表彰制度(主催:日本物流団体連合会)」において、「モーダルシフト取り組み優良事業者賞 新規開拓部門」を受賞。輸送CO₂削減とドライバーの負担軽減をめざし、モーダルシフトへの取り組みを推進してまいります。



9月・12月

ラストワンマイル配送における EV車両の導入を加速

SBSグループ

SBSリコーロジスティクスは9月、次世代型EV車両「F1VAN」の初号機を導入し、納車式を執り行いました。また、SBS即配サポートも12月、ラストワンマイル配送用のEVを追加導入しました。サステナビリティ目標の達成に向け、2024年度はグループで約100台の車両をEVに置き換えてCO₂の削減を図ってまいります。



会社概要&株式の状況

会社概要

社名 SBSホールディングス株式会社
代表取締役 鎌田 正彦
創立 1987年12月16日
資本金 39億20百万円
売上高 4,319億円(連結) ※2023年12月期
所在地 〒160-6125 東京都新宿区西新宿8-17-1
住友不動産新宿グランドタワー25階
TEL:03-6772-8200(代表)

事業内容 物流事業、不動産事業、マーケティング事業、人材事業 他

連結子会社 SBS東芝ロジスティクス(株)

2024年1月1日

TLロジサービス(株)

東芝ロジスティクス上海外高橋社

東芝ロジスティクス大連社

東芝ロジスティクスシンガポール社

TLフォワーディングサービス・フィリピン社

TLサービスタイ社

東芝ロジスティクス・ベトナム社

東芝ロジスティクス米国社

東芝ロジスティクス杭州社

東芝ロジスティクス香港社

東芝ロジスティクスフィリピン社

東芝ロジスティクスタイ社

東芝ロジスティクス・マレーシア社

東芝ロジスティクス・インド社

東芝ロジスティクス欧州社

SBSリコーロジスティクス(株)

SBS三菱ロジスティクス(株)

RICOH INTERNATIONAL LOGISTICS (H.K) Ltd. [香港]

SBS Logistics (Thailand) Co., Ltd. [タイ]

(株)ジャス

RICOH LOGISTICS CORPORATION [USA]

理光国際貨運代理(深圳)有限公司 [中国]

SBS Vietnam Co., Ltd. [ベトナム]

SBSグローバルネットワーク(株)

SBSロジコム(株)

SBSフレイトサービス(株)

旭新運輸開発(株)

SBSロジコム関東(株)

SBSフレック(株)

SBSフレックネット(株)

(株)日ノ丸急送

SBS即配サポート(株)

SBSゼンツウ(株)

SBS古河物流(株)

SBSスタッフ(株)

SBSファイナンス(株)

マーケティングパートナー(株)

SBSアセットマネジメント(株)

(株)エルマックス

役員 (2024年3月27日現在)

代表取締役 鎌田 正彦
取締役 星 秀一
取締役 泰地 正人
取締役 田中 康仁
取締役 五味 夏樹
取締役 若松 勝久

社外取締役 岩崎 二郎
社外取締役 小杉 善信
取締役(常勤監査等委員) 遠藤 隆
社外取締役(監査等委員) 松本 正人
社外取締役(監査等委員) 辻 さちえ

株式の状況

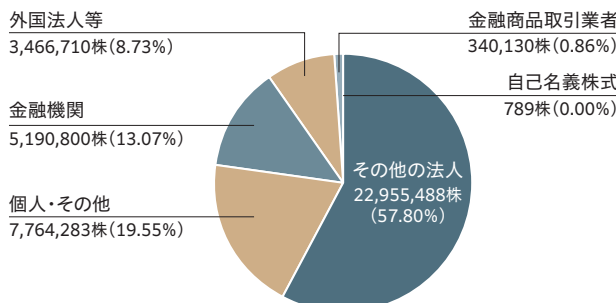
発行可能株式総数 154,705,200株
発行済株式の総数 39,718,200株
単元株制度の有無 有(100株)
株主数 5,495名

大株主の状況 (2023年12月31日現在)

株主名	持株数	持株比率(%)
株式会社鎌田企画	19,888,400	50.07
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,464,100	6.20
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,195,600	5.52
SBSホールディングス従業員持株会	1,200,800	3.02
和佐見 勝	1,078,600	2.71
東武不動産株式会社	1,001,000	2.52
ノルウェー政府	655,409	1.65
大内 純一	601,400	1.51
株式会社ばんせい総合研究所	410,000	1.03
上田八木短資株式会社	366,200	0.92

※発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数第3位を切り捨てて表示しております。

所有者別株式分布状況 (発行済株式総数:39,718,200株)



株主メモ

■ 事業年度

1月1日~12月31日

■ 期末配当金受領株主確定日

12月31日

■ 定時株主総会

毎年3月開催

■ 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

■ 同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1

TEL. 0120-232-711(通話料無料)

郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

■ 上場証券取引所

東京証券取引所 プライム市場

■ 公告方法

公告掲載URL <https://www.sbs-group.co.jp/>

※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



SBSホールディングス株式会社

〒160-6125 東京都新宿区西新宿8-17-1

住友不動産新宿グランドタワー25階

TEL:03-6772-8200(代表)